令和２年度　第２回神奈川県がん教育協議会結果について

１．協議事項

ア　令和３年度　がん教育の取組について

承 認 す る・・・12 人
承認しない・・・０人
結果：承認されました

御意見

●日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科　教授　助友委員

（資料 11：24-25 ページ）外部講師を医療者（医師）に限定しなくてもよいのではないでしょうか。がん経験者、コメディカルなど、多様なバックグラウンドの外部講師の有用性が指摘されております。重点的に取組むということでしたら、このご提案でよろしいかと思いますので、念のための確認ということでコメントさせていただきます。また、窓口は拠点病院側はがん・疾病対策課、学校との窓口は教育委員会ということでしょうか。連携図を描いておけると担当者が異動した時でもスムーズかと思いました。

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」　世話人代表　松沢委員

23ページ外部講師を活用したがん教育研究授業について

これまで、がん教育研究授業は外部講師を目指すものにとっては貴重な学びの機会として毎年、見学させて頂いてきました。令和2年度はコロナ禍ということもあり、公開は難しかったことと思います。来年度は、協議会の構成員に対し、事前にがん教育研究授業実施要項を提示していただき、実施状況の共有、見学等の機会を与えていただけますようお願い致します。

●神奈川県がん患者連合会　理事　長谷川委員

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、その実施が中止に追い込まれた他県もある中で、ICT の利用、保健体育や特別活動以外の科目での実施など、がん教育を推進してきた令和 2 年度の実績は大きい。その実績を踏まえて、関係各所の信頼関係を基に、令和 3 年度の取り組みがさらに進むことを望む。

●神奈川県ＰＴＡ協議会　執行役員　鵜塚委員

今年度は、初めてのコロナ禍での活動ということで世間的にも中止の方向でやむを得ない状況でしたが、来年度はどうすれば活動できるかを考えるべきだと思いました。協議会でも ZOOM 等を取り入れ、会議を行っていくなど対応されていて良いと思う。

●神奈川県中学校体育連盟研究部会　会長　市川委員
今年度はやむを得ない状況であったが、可能であれば集合研修を行いたい。

●神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長　古島委員
今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた中で、がん教育指導者研修講座において動画や書面開催を行い受講者が増えたことや、外部講師を活用したがん教育研究授業ではオンライン授業の開催やICTの活用した授業の実施などが行われたという報告を拝見しました。令和３年度の実施についても、学習者が参加しやすい環境を考え、取組んでいくことが必要になると思います。

●神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課長　濵委員
P.23　新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の徹底をお願いします。

イ　令和２年度　神奈川県におけるがん教育の４か年計画について（案）
御意見
●神奈川県立がんセンター臨床研究所がんサバイバーシップ・教育ユニット長
　片山委員
・資料12（26頁）：平成26年度の県の取組みの記載について。
「神奈川県がん克服条例」一部改訂となっているが、『「県がん克服情報」を改正し、普及啓発とは切り離してがん教育の推進を一条新設』とした方がよい（県がどれだけがん教育を重視しているかがわかる）。
・同じく28頁：右欄は「県の取組」となっているが、県とはすなわち県教育委員会やがん・疾病対策課を指すと理解している。そこに、あえて令和2年度の取組説明に「がん・疾病対策課との協働」という表現があるが、これは不要ではないか？入れるのであれば正式な協働先全てを記載した方がいい。
・同じく36頁：目標及び評価の具体的な方法の箇所について、県オリジナルの取組みをここにもう少し記載してはどうか？例えば、①国や県が作成した教材等を活用し、各教科でがん教育を実践できるように具体的な事例や活用方法を検討し、・・・例示する。（保健以外での取組みを明示）

●日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科　教授　助友委員
（26ページ）生涯罹患は「男性62%、女性46%」→「男性65.5%、女性50.2%」に更新されました。
（29～31ページ）がん教育の内容ア～ケの一部が、まもなく改訂される予定です。また、同ガイドラインについても文科省において今年度に改訂作業を行っておりますので、その結果をふまえて次年度に反映できると良いと思います。

（36～37 ページ）短・中・長期目標は、総じて取組みのインプット・アウトプットに過ぎないものです。本来、このがん教育を実施することによって、がん教育の目標がどの程度達成されたのか（アウトカム評価）を確認する作業が必要ではないかと思います。つまり、児童・生徒の認識・思考にどのような姿を見いだせればよいのか、既存の学校保健関連調査等の活用・連携してモニターしていくことができればよいと考えます。しかしながら、本協議会が、取組み（インプット・アウトプット）の評価に焦点を当てて議論するという立場をとるならば、この限りではございません。

●神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」　世話人代表　松沢委員
39ページの推進スケジュール概要（案）を見ますと、今後、がん教育がどのように進められていくのかが、一目でわかり、希望を感じます。
令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて延期されたリテラシー調査報告書の作成、ワーキンググループの立ち上げ、研修講座受講に関する管理者への周知等で、管理職のがん教育についての理解が進み、研修会に参加される教員の数が増え、がん教育の推進に勢いがついてゆくことを願います。

●神奈川県がん患者連合会　理事　長谷川委員
がん教育協議会委員の意見を反映・集約し、まとめられたと考える。
関係者が目標に向けての共通認識を持ったことになる。次のアクションへ進む段階となった。その推進に関しては、事務局の先生の継続や協議会（WG 含む）の活発な意見交換のもと、進めていただきたい。

●神奈川県ＰＴＡ協議会　執行役員　鵜塚委員
計画に関しては良いと思う。
各年度における進捗を確認しつつ、がん教育を広めることと理解の促進のため、臨機応変に対応できたら尚良いと思う

●神奈川県中学校体育連盟研究部会　会長　市川委員
良いと思います。

●神奈川県学校保健連合会養護教諭部会　部会長　山下委員
・方向性はおおむね理解いたします
・学校におけるがん教育の基本的な考え方、がんをほかの疾病と区別して特別に扱うことが目的でない。という部分を十分周知していただけるとありがたいです。
・がん教育で配慮の必要なことを考えたうえでの授業展開についても、取り扱ううえでの大事な観点と考えていただきたいです。

●神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長　古島委員
令和３年度においても、小・中学校においては今後も子どもたちの発達段階に合わせ、感染状況に留意し、学習活動を工夫しながらがん教育の取組みを進めるよう検討してまいります。

２　その他
御意見
●神奈川県立がんセンター臨床研究所がんサバイバーシップ・教育ユニット長
片山委員
県はがん克服条例に普及啓発とは切り離してがん教育の推進を一条新設するほど力を入れているはずですが、形だけなのでしょうか？新設する割には予算もなく、文科の委託事業の費用がなくなった後の予算についても検討が必要かと思います。

●日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科　教授　助友委員
モデル校におけるアンケート調査結果は、単年度だけでなく、各設問の過去の回答割合も一緒に掲載しておくことで、今年度の振り返り作業に深みが出てくると思います。

神奈川県がん教育協議会事務局（神奈川県教育委員会指導部保健体育課）より
　委員の皆様から頂いた御意見については、検討または参考にさせていただきます。令和３年度神奈川県がん教育協議会において、令和２年度第１回神奈川県がん教育協議会で頂いた御意見と共に協議事項として再掲する予定です。